明海大学浦安キャンパス教育後援会会報

明海大学
MEIKAI UNIVERSITY

潮風

平成16年1月20日発行（年2回刊）
〈教育後援会だより〉
しおかぜ
発行／明海大学浦安キャンパス教育後援会
〒279-8550　千葉県浦安市明海8
電話　047-355-5112　FAX　047-355-2871
http://www.meikai-koenkai.com/

関東地区懇談会

2003年度・地区父母懇談会

総勢約500名が参加して行われた2003年度地区父母懇談会。
初めて開催された盛岡市など東北、北陸、関東、東海で6回開催。

東北地区A

9月20日（土）、初めての開催地となる盛岡市で2003年度の父母懇談会がスタートした。

参加者は小泉允圀副学長をはじめとした教職員、教育後援会役員、事務員そして父母の42名。参加した父母の多くは岩手県在住。そのほか青森、秋田、宮城など、中には車で3時間かけて参加した父母もいた。

大塚博行教育後援会会長は「多くの先生方も参加していただいております。遠く離れた地にいるお子さまのことは何かと心配かと思います。学業のこと私生活のこと、また留学、就職について何でも相談していただき、有意義な一日にしてください」と挨拶。

続いて、9月期の入学式に出席している高倉翔学長にかわり、小泉允圀副学長が「明海大学は教育後援会のお力によるところが非常に大きく、さまざまな面でご支援いただき感謝しています」と挨拶。また、大学の沿革や大学が取り組んでいる教育内容、就職支援などの近況報告をされた。

この後メディアセンター長の林亜夫教授が「学力崩壊とは何か」と題し約40分の講演を行った。

現代の大学生の多くがなぜ中学校で習う分数や割合がわからないのかをいくつかの例をあげて話され、少子化に伴う学力低下について「現在の子どもの遊びは、一人はファミコン、もう一人はその横で本を読んでいるなど、友だちと遊んでいるようで実際は友だち付き合いをしていない。その昔は、遊びの中でも物を分け合ったり物を交換するなど、分数や割合を遊びの中で自然と勉強していました」と話し、また、今の学生の特徴として、結論だけを急いで求めたりと『知識の断片化』をする学生が多く、順序だててじっくり考えることが苦手になっていると話された。

林亜夫教授の講演

個別面談では成績表をもとに話が進められ、父母の方たちは熱心に先生の話に耳を傾けていた。

懇親会では和やかなひとときを過ごし、今年で卒業する4年生の父母は「色々とお世話になり感謝しています」と挨拶。最後に教育後援会幹事の奥山さんが「今日の話を子どもたちにも聞かせたいと思いました。浦安に住んでいる私でも子どもが大学に行っているのか時々心配になることがあります。みなさんはもっと心配だと思います」と挨拶し時を過ごし、今年で卒業する4年生の父母は「色々とお世話になり感謝しています」と挨拶。最後に教育後援会幹事の奥山さんが「今日の話を子どもたちにも聞かせたいと思いました。浦安に住んでいる私でも子どもが大学に行っているのか時々心配になることがあります。みなさんはもっと心配だと思います」と挨拶し

【参加者の感想】

●今回参加した目的は、本人の希望で来年長期留学を希望しており、費用や制度などを直接お聞きしようと思いました。先生方と話をして大学から補助も受けられる制度もあるようなので安心しました。
日本語学科2年女子（秋田県）

東北地区B

9月27日（土）福島市で東北地区父母懇談会が行われ、盛岡市に続き東北地区では2回目の開催となった。

参加者は高倉翔学長を始めとした教職員、教育後援会役員、事務員、そして44名の父母を合わせ74名。

溝口正孝教育後援会副会長が「この地区懇談会は教育後援会の主力事業の一つです。本日は先生方や職員の方がいらっしゃいますので、大学に対するご意見やご質問をしていただければと思います」と挨拶。続いて高倉学長が明海大学を含めた日本の大学の現状や制度改革など、社会的な問題について話をされた。

大学の近況報告は朝日譲治経済学部長から行われ、「明海大学にとってすばらしいニュースとして、今年の3月に外国語学部大学院で3名の『応用言語学博士』が誕生しました。また、9月には不動産学部大学院からも1名『不動産学博士』が誕生し、どちらも日本で初めての博士の誕生です」このほか、昨年度から取り入れたカリキュラムについて報告をされた。

講演会では経済学部、高月昭年教授が「努力家は希望を語り、怠け者は不満を語る―最近の若者群像」と題し、約50分間話をされた。高月教授の専門は金融論。冒頭ではヤミ金融の仕組みなどについて話されその後、銀行マン時代に接した若者の話や大学に来てからの学生『今時の若者』について話をされた。

この後、個別面談が行われ、教務や留学、学生支援、就職コーナーにも多くの方が相談をしていた。就職活動をしている4年生の子どもを持つ父母は「就職についての相談をし、とても参考になりました。子どもには10月に行われる学内就職セミナーに、ぜひ参加するよう伝えます」と話してくれた。

懇親会では来年卒業予定の4年生の父母が突然の指名にも関わらず「このような楽しい会でしたら1年生の時から参加すればよかったと思いました。1年生の父母のみなさんはこれから毎年参加してください」と話してくれた。

高月昭年教授の講演

【参加者の感想】

●学長のお話を聞き大学が色々と努力をしているのが分かりました。
不動産学科1年男子（山形県）

●本人の希望で入った大学なので学生生活は楽しいといっていますが、遠く離れて一人暮らしをしている娘のことを考えると全てが心配です。今日は大学の状況も聞け、また、個人面談もとても参考になりましたので参加してよかったと思います。
経済学科1年女子（山形県）

北陸地区

北陸地区父母懇談会が新潟市内で10月13日（祝）に開催された。この日はあいにくの雨となってしまったが、会場には新潟県富山県に住む24家族、38人の父母と、大学側からは小泉允圀副学長をはじめとした教職員と、教育後援会の役員らが参加。

まず、鈴木陽夫教育後援会副会長が、「地区懇談会は教育後援会の主力事業で学校と父母をつなぐ重要な事業と位置づけています。本日は大学から各学科の先生方、事務職員の方にきていただいています。日頃ご子弟の学業や学生生活についてはいろいろとご心配かと思いますが、この会合の

（次ページへ続く）

「夢ある飛躍の年に！」

教育後援会会長　大塚博行

2004年の新春を迎えるにあたり、教育後援会会員の皆様に対して心よりお慶び申し上げます。また、日頃より教育後援会の諸活動に対してご理解ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

教育後援会は16年目を迎え、役員一同で努力してまいりましたが早くもまとめの期間に入ってまいりました。本年度の事業成果と課題の一端を述べて新年のご挨拶と致します。

―本年度の成果として―

今年度の地区父母懇談会は、例年行っている東北地区（福島市）、北陸地区（新潟市）、東海地区（静岡市）、関東地区（2年次・浦安キャンパス）に、東北地区（盛岡市）、関東地区（3年次・浦安キャンパス）の2カ所を加え、より充実した地区父母懇談会を開催することができました。学長はじめ大学教職員、後援会役員が述べ220名の動員人数になり、その協力に対し心から感謝をしたいと思います。懇談会に参加した父母の皆さんからも大学との緊密な相互理解と信頼を深めることができて安心したとの声を多く聞くことができました。

地区父母懇談会の中で個別面談のほかに留学・就職・教務・学生相談も相談者の増加がみられました。関東地区では3年次に就職懇談会を計画し、講演や内定した学生によるパネルディスカッションも多くの反響をよびました。

今後も一人でも多くの父母が参加できるように内容の充実を図っていきたいと思います。

次に、教育後援会のホームページですが情報内容としては当初少々堅い内容でしたがよりやさしく、具体的で状況に即した内容をと努力してまいりました。多くの写真や速効性のある構成になってきていると思います。また、学友会、課外活動、留学生連合会等の自主的諸活動に対しても教育後援会として例年以上の協力・援助をすることができました。長、短海外派遣事業、進路・就職対策、福利厚生施設、少人数教育推進指導者に対する援助等々の支援も積極的に推進することができたと考えております。

今年度の残りの期間で教育後援会表彰の具現を図りたいと考えております。

―本年度の課題として―

長期経済不況からくる学生の経済的不安定は増加の一途にあります。その為に奨学金の貸与要望が多く、教育後援会としても苦慮しております。

希望者の多くに貸与できるような対策が大きな継続課題と考えております。また、地方から来ている学生（留学生も含めて）に対して、安く安全な住居も不可欠です。入学期には各地方の父母からの問い合わせも多く、大学、市当局や地域住民をも含めての対策が重要となってくると思います。学生食堂についても、安価で豊富なメニューとの要望もあります。

長期的な課題としては、大学や学生が活動できるコンベンションホール（多目的ホール）なども要望としてだされております。

いずれの課題もすぐには解決できないと思いますが、大学の発展と学生の幸せのために教育後援会は協力、支援していきたいと思いますので会員皆様の一層のご協力ご支援をお願い申し上げます。

中で十分ご相談いただき、大学での様子を理解していただければと思います」と挨拶。

大学側を代表して成瀬隆副学長がご挨拶され、国公立大学の法人化など、大学をとりまく厳しい状況について話し、本学を含む大学が第三者機関からの評価を受けるようになることや、学生たちによるチェックを実施し、学生からの要望に応えるべく努力していることを話された。

さらに、小泉允圀副学長が、明海大学が行っている「魅力ある大学づくり」のための取り組みのひとつで、昨年から導入されている新しいカリキュラムについて詳しく説明。大学在学中にしっかりとキャリアサポートすることを目指した、より実践的で実学的なカリキュラムについて話をされた。

その後、外国語学部長の小池生夫教授が「日本人と英語」をテーマに講演。遣唐使の時代や、江戸時代の歴史上のエピソードを交えて、日本と外国語のかかわりについて、わかりやすくおもしろく話をされた。

個別面談では、各学科の先生方による成績相談のほか、教務や留学支援、学生支援、就職支援など学生生活全般にわたる相談コーナーが設けられ、多くの方が相談をしていた。

そして懇親会では、成瀬副学長が「ここからは堅い話は抜きです。かみしもを脱いで語り合いましょう」と口火を切り、一気に和やかな雰囲気になった。

最後は教育後援会の岡崎幹事が「経済状況が厳しく、学生たちの就職はたいへんだが、教育後援会役員が父母の代表として、しっかりサポートしていきたい」と挨拶し、大きな拍手をあびた。また、鈴木副会長は「参加いただいた方には概ね喜んでいただいたようだが、もっとたくさんの父母におい集まりいただきたかった。来年を楽しみにしています」と感想を話した。

〈教務相談〉

・本学の大学院に進みたいという方から、大学院の授業や試験について質問があげられた。

〈就職相談〉

・地元で就職したいという3年生からの相談に、まずは地元で就職する意志を固めてほしいとアドバイス。そうすればやるべきことが自ずから見えてくるので、意志を決めるには、よく親子で話し合うこと、就職支援も訪ねてほしいと話した。

〈留学相談〉

・来年留学が決まっている学生の父母に、出発までの準備について質問された。学生を通して情報を流しているつもりだったが、もっときめ細かく行う必要があると感じた。

【参加者の感想】

●個人面談で卒業できそうだと伺い、ほっとしています。毎年参加してきましたが今年が最後。ちょっとさみしいです。明海大学の先生方は温かくて面倒見がいいと思います。卒業後もよろしくお願いします。
不動産学科4年男子（新潟県）

●有意義な会でした。相談コーナーは気軽に相談できる雰囲気でよいと思います。先生方とこんなに親しくなれるとは思いませんでした。
不動産学科2年女子（新潟県）

個別面談（北陸地区）

東海地区

東海地区父母懇談会が静岡市内で11月9日（日）に開催された。会場には20家族、27人の父母と、大学側からは成瀬隆副学長、小泉允圀副学長をはじめとした教職員21人と、教育後援会の役員らが参加。

まず、教育後援会の横濱孝雄副会長が、「9月20日に盛岡からスタートし、新潟、福島とやってきて、ここ東海と、関東を残すのみとなりました。限られた時間ではありますが、成績だけでなく、就職、留学の相談コーナーもあるので、積極的に活用して、有意義な1日にしてほしい」と挨拶した。

大学側を代表して成瀬隆副学長が挨拶され、国立大学の法人化など、大学をとりまく状況について説明し、「大学は自主性をもって、特色ある教育を展開していく時代。本学でも、教職員一丸となって、新しい教育に取り組んでいきますので、今後ともお力添えをいただきたい」と話された。

さらに、小泉允圀副学長が大学の近況報告を行った。

全体会終了後は、経済学部の塩田長英教授が「好きこそものの上手なれ」をテーマに講演。多くの学生が大学に行ける豊かな時代。しかし、そのぶん子どもたちは学校に行かせられる時間が長くなるなど、豊かであるがゆえの不安定が生まれている。そんな時代に自分らしく豊かに生きるにはどうしたらいいか、また大人になりきれず不安定な状態の子どもたちとどう向き合ったらよいか、といったお話を伺うことができた。

個別面談では、各学科の先生方による成績相談のほか、教務や留学支援、学生支援、就職支援など学生生活全般にわたる相談コーナーが設けられ、多くの方が相談をしていた。

そして懇親会も横濱副会長が、「堅い話は抜きにして、何でも先生方にぶつけてください。また、東海地区の父母のつながりをつくっていきましょう」と挨拶。

途中、1年生の父母が全員壇上に上がり、自己紹介するという場面もあった。また、4年生の父母からは、卒業しても地区懇談会に参加できるようにしてほしいという提案が飛び出すなど、楽しい雰囲気で盛り上がった。

最後は教育後援会の鈴木陽夫副会長が「毎年懇談会を開きますので、来年はもっと多くの方に参加していただけるよう努力したい。また、皆さんも声をかけあって、参加者を増やしていきましょう」と呼びかけた。

〈就職相談〉

・まだ就職が決まっていないという3年生の父母から相談があった。就職戦線が長期化しているので、まだチャンスはある。就職支援に相談に来てほしいとアドバイスした。

〈留学相談〉

・長期留学を希望されている方からの相談。費用や向こうでの生活など、いろいろと心配されていた。明海大学の留学支援のシステムを説明し、旅行社のあっせんする留学との違いを説明した。

【参加者の感想】

●とても楽しい雰囲気でした。子どもはいい先生や職員の方たちに囲まれているのだなあと思いました。
不動産学科1年男子（静岡県）

小池生夫教授の講演

塩田長英教授の講演

三本木健治教授の講演

関東地区

今年最後の父母懇談会となった関東地区懇談会。2年次を対象に12月6日（土）明海大学浦安キャンパスで開催された。

懇談会ではまず、教育後援会の大塚博行会長が、「教育後援会ができて16年目。今年はホームページを開設したり、3年生を対象とした就職懇談会を開催したりと、活動をよりいっそう充実させることができました」と事業について報告し、今後の協力を呼びかけた。

続いて、大学を代表して高倉翔学長が、国公立大学の法人化など、大学をとりまく厳しい状況について説明し、「改革なき大学は淘汰される」と分析。明海大学はそれにどのように対応し、改革を推進しているかについて話をされた。

さらに、小泉允圀副学長が、明海大学の改革の取り組みについて詳細に説明された。

その後、不動産学部の三本木健治教授が「まちづくりウォッチング―学生とともに」をテーマに講演。先生は授業の中でタウンウォッチングを取り入れており、中でも自分が住んでいるまちをウォッチングさせると、改めてそのまちに興味を持ち、歴史を知りたくなるなど、親と話しをするきっかけになることも多いと話された。また、「まちづくりにはバランス感覚が必要」と言い、本学の学生たちもなかなかすぐれたバランス感覚を持っているので、「そういった若いセンスをまちづくりに活かしていきたい」と話した。

全体会終了後は各学部に分かれての個別面談が行われた。

【参加者の感想】

●大学の実情、大学の取り組みがよくわかりました。カリキュラムの話が興味深かったです。自分が大学へ行っていた頃とはずいぶん様子が違うので驚きました。新しくなった図書館を見学していきたいと思っています。
経済学科2年男子（千葉県）

●大学の改革はしっかりやっていただきたい。
経済学科2年男子（千葉県）

●個人面談はていねいにやっていただき、よくわかりました。できれば子どものことを知っている先生とお話できればいいと思います。
英米語学科2年女子（東京都）

懇親会にて（東海地区）

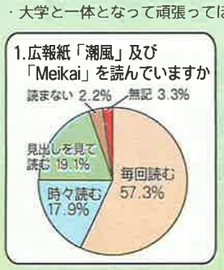
地区懇談会アンケート

アンケート回収数89名　日本語学科10名・英米語学科29名・中国語学科3名・経済学科19名・不動産学科28名
学年：1年28名・2年15名・3年31名・4年15名　　参加回数：1回47名・2回19名・3回17名・4回6名

A.今後の教育後援会に期待することは
- これからも懇談会を続けてほしい
- 個別面談の時間を長くしてほしい
- 学生、学内の状況についての情報
- 就職状況の案内
- 留学制度のバックアップ
- 大学と一体となって頑張ってほしい

B.大学に関しての要望は
- 内容を細かく教えてほしい　・就職、資格等の情報提供
- 留学枠の拡大　・社会に役立つ学生の育成
- 落ちこぼれそうな学生を最後まで見放さないで
- 先生と学生が会話が出来る場を増やしてほしい
- 学生が学習の意欲をもつ講義内容を
- 定期的に個人と面談をしてほしい

1.広報紙「潮風」及び「Meikai」を読んでいますか



2.大学からどんな情報を希望しますか

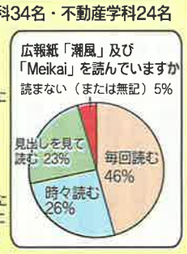
3.ご子弟と大学について話をすることがありますか

関東地区懇談会アンケート（2年次対象）回収数99名

日本語学科3名・英米語学科24名・中国語学科14名・経済学科34名・不動産学科24名

A.地区懇談会に参加した印象について
- 学長、副学長の話を聞くなど有意義な時間だった
- 初めての参加でしたが、講演もあり有意義でした
- 大学側と後援会が一体となり、熱意が感じられてよかった
- 大学の改革が現在進んでいることがわかった
- 大学について全く知らなかった事がよく分かりよかった
- 大学の熱意が感じた。今後も継続してほしい
- 良い情報収集の場でした　・大学の方針が理解できた
- 子どもを知っている先生と直接話ができてよかった
- 時間の制限がありますが、もう少し詳しく説明を受けたかった
- 大学がとてもきれいだった。先生方の対応がとてもよかった

広報紙「潮風」及び「Meikai」を読んでいますか



B.ご子弟との話では、どんな話題が多いですか
- 授業やレポート、テストについて　・就職・先輩やサッカーの話　・クラブ活動　・授業内容　・授業をきちんと受けているのか　・大学院、各種資格試験　・休講について　・卒業はできるのか　・国家試験　・友だちのこと　・学食のメニューについて

基礎力をつけろ

教務部長／経済学部教授　津野憲道先生

Interview

62歳。東京都立大学大学院修了、理学博士。城西歯科大学から1994年に本学に赴任。著書に「ライフサイエンス入門」(共著) などがある。

昨年度から、浦安キャンパスのカリキュラムに関する責任者である教務部長を務めている。魅力ある大学づくりのために、本学のカリキュラムは改良に改良を重ね、ここ数年大きく変化している。

「どこにポイントを置いて教育するかがカリキュラムに現れます。今は就職に強い学生を育てることに、目標を置いています」

自己開発のためのプログラム（PDP）や、社会の動きを知るプログラム（SDP）が1年生の必須科目になったし、日航のインストラクターによるツーリズム・ホスピタリティプログラムや、企業で仕事を体験をするインターンシップなど、直接社会と結びつく科目も多数導入されている。

「4年間で取れる単位数は決まっていますから、そのやりくりをするのが主な仕事です」

豊富で多彩な科目が増え、学生たちにとって魅力的なカリキュラムとなった反面、半期で完結する2単位の科目が多くなり、「じっくりと教えることが難しくなった」と話す。

ご自身は生物学が専門。「文系の大学で理系の科目を担当する先生は、授業の内容を工夫していますよ」

高校の選択制の弊害か、学生の学力低下の現れか、授業で数式や化学記号が出てくると、学生達はアレルギー反応を起こし、受け付けなくなってしまうとか。「学生が嫌いなことはなるべく避けて、興味を持てそうな話題を選んで、生物学の楽しさを知ってもらうよう努力しています」

関西出身。「人と話をするときは、おもしろい話しをしなきゃいけないという強迫観念がDNAに埋め込まれているみたいなんですよ」(笑)。授業でも時事ネタを使ってジョークを飛ばすが、最近思ったほど笑いが取れなくてがっかりすることが多いそうだ。

「当然読まなければいけない本を読んでいないし、新聞はおろか、テレビさえもあまり見ていない。だから何がおもしろいのかわからないのでしょう」と危機感を募らせる。

「基礎力をつけろ。それが生きる力につながるはず」と、明海生にエールをいただいた。

卒業パーティーは、もうすぐそこ！

テーマは「MEIKAI Blooming Front」

明海生最後の日を楽しもう

宇津木暢応委員長

学生の参加予定者数800名に対し、12月16日現在450名の応募があり順調に進んでいるようで、500名の応募までは保護者の参加も希望どおりになる予定。

委員長の宇津木暢応さんは「以前は卒業パーティーの規模も700名～800名。そして昨年が1100名強。今年は1300名と年々大きくなってきています。これはひとえに　教育後援会の援助があってのこと、とても感謝しています」。

参加者が楽しみにしている賞品は数を少し減らした分、選りすぐりのものを用意しているそうだ。また、アトラクションも充実。そしてなんといってもパーティー用のオリジナル料理も登場するそうだ。

「夢は、卒業生すべてが参加できるパーティーになればと思っています。ぜひ卒業生と一緒に明海生最後の日を楽しんでください。そしてこれからもご支援を宜しくお願いします」

2002年度卒業パーティー

留学生インタビュー

日本語学科3年　孔寶儀さん

――来日5年目。目指すは日本語学科教授――

孔さんは、「隣の人が自分とは全く違う言葉を使うことなど珍しいことではありません」という、国際色豊かな香港の出身。「日本に来てからは、電車の中で友人と話していると、違う言葉を話す私をほとんどの人が見ます。まだ日本の社会は外国人が珍しいのではないかと思っています」

香港は中国の一部だが、イギリスの植民地時代を経ているので、考え方や文化、言葉が中国本土と違うそうだ。「どこが違うかというと困りますが、同じ中国人留学生に中国のことを教えてもらうほど考え方などが違うと思います」

日本に来る前の日本の印象は、先進国できれいな街だと思っていた。それは親が日本へ観光をした際に見たことを教えてくれたことで、「トイレ一つをとっても中国とは違う。特にトイレの中に子どもを乗せるベットがあるのには驚いた、というような話でした」。

孔さんは中国の大学で3年間デザインを学んだ。「デザインの参考にいろいろな国の雑誌を見ていましたが、いつも私は日本の雑誌を参考にしていました。特に携帯電話のデザインは、模様がとても繊細に考えられている。日本人は細かいところまで気が付くのではないでしょうか」

日本が好きな孔さんは、ついに2000年に初来日をする。すぐに一人暮らしをはじめ、不便なことも多かったという。「言葉がわからなかったので、電球などの日用品をどこで買ったらいいのかなど、簡単なことができませんでした」。日本語学校で1年間日本文化を学び短期大学へと進んだ。短大時代の先生から「4年制の大学に進んだほうがいい」とアドバイスを受け、日本語学科がある大学を短大の指定リストから探すことに。資料をみてすぐ気に入ったのが明海大学。先生からの薦めもあって受験。そして昨年の4月に明海大学へ編入することになった。

明海大学の第一印象は「看板に書かれている大学の名前も英語表記ですし、図書館も英語で呼ぶなど古くない感じがしてとてもいい印象でした」。授業でも短大時代と比べて充実しているという。また、短大では1クラス40人だが実際の出席者は10人ほど。「明海生は出席率も高く、授業も真剣に受けていて、とても真面目だと思います」

将来の夢は、大学院へ進み香港へ帰って日本語の教授になること。しかし、あと2年間余計に親を待たせるという悩みもある。親からは「女性として、そこまでしなくても」と。

親元を離れて5年目。日本で震度5以上の地震があると香港のテレビにテロップが流れ、親がすぐに電話をしてくるそうだ。「親はいい人を探して家庭に入って欲しいと思っていますが、私の考えは家庭と仕事を両立させることです」と、笑顔のすてきな孔さんでした。

2003年香港にて

2004年1月9日（金）、大学から富士山が見えた。『世界一汚い山』との声もあるが、なぜか遠くに見える富士山を眺めていると心がほっとする。

グラウンドでは正月開け、早くも部活動の練習が行われていた。

スキーシーズン
＜利用資格＞保養施設をご利用ください。
学生、教職員及びその二親等以内の親族
＜申し込み方法＞
学事課（学生支援）※大学発行の利用券が必要です。
＜利用料金＞1人1泊2食付　個人負担 3,000円
（税・サ除く）
※空室状況は下記にお問合せを。
★新潟県南魚沼郡湯沢町岩原
関越自動車道 湯沢インターより約15分
ホテル・アルパイン
電話0257-87-3055
ガーデンクレス
電話0257-87-4411